

平成17年1月25日  
第10号

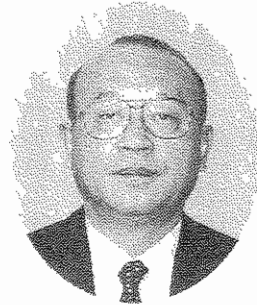
# 素流協 News

平成17年1月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6/電話019(652)7227/FAX019(652)7227

## 新年のご挨拶

岩手県素材流通協同組合

理事長 下山裕司



素流協組合員の皆様、明けましておめでとございます。

本年もよろしくご指導、ご鞭撻のほどお願いいたします。

岩手県素材流通協同組合は、発足以来二回目の新年を迎えたことになりましたが、昨年一年間についてみると、組織の草創期の激動の中にありながら組合員各位のご協力によって当協同組合の事業は、かなり順調に進捗していると考えております。今年度の事業もあと残すところ三ヶ月となりましたが、これまでの素材供給量の実績・趨勢を保ちつつ計画量を達成して平成十六年度事業を有終の美で飾り

たいものと考えております。

さて、今年のが県の森林・林業を展望するのは難しいのであります

ますが、私たちの従事する素材生産事業についてみると、私のま

たくの私見であります。平成十七年のわが県の素材生産量は一〇

五万㎡の一〇万㎡でそのうち針葉樹素材が六十五万㎡程度になる

のではないかと考えております。確かな根拠があるわけではありま

せんが、わが県の素材生産量のこの二、三年間の実績の推移を見ると、平成十四年九十五万㎡、平成十

五年九十七万㎡で、平成十六年の素材生産量については、まだ数値

が公表されていませんが一〇〇万㎡一〇三万㎡程度ではないかと

推測しております。そうすると、現下のが国の経済動向等から見

て昨年（十六年）よりも若干増え

るのではないかと予想したわけがあります。仮に平成十七年にわが県の素材生産量が一〇万㎡になれば過去最低であった平成十四年の素材生産量実績に対して一六%ということになり、林業生産活動が若干活発化の兆しが見えてきたということになりました。素材生産活動が活発になるということは、立木の売買が盛んになることを意味するし、新植を含めた森林整備の仕事も増えることになります。したがって、岩手県林業の活性化を進めるためには、わが県の素材生産事業のかんりの部分を担っている素流協会の頑張りが大いに期待されるのであります。素流協と致しましては、事業実行体制の一層の整備を図るとともに、会員各位の事業が円滑に実施されますように事務局運営に努めてまいりたいと考えております。素流協会員各位におかれましては、寒さが益々厳しくなります折からご自愛されますようご祈念申し上げます。ご挨拶と致します。

# 国産材(地域材)の需要拡大は 「原木の安定供給」の視点で!!

北日本プライウッド株式会社

代表取締役社長 福崎 健 三

二〇〇四年度は自然災害が世界的に異状多発の一年間であった。まさに異状気象の年であった様にして居ります。

影響もあるが)地球環境の維持改善に本格的に対応することの必要性については国民の多くが認識されてきていると思います。

地球環境の劣化が人類に警鐘を鳴らしている様な気がします。この「思い」を更に強くしたのは昨年十一月末に私共の御客様の中国臨沂市のポプラLVL工場視察のため初めて中国を訪ねる機会を得ました。驚いた事が二点ありました。その一が大気汚染の劣悪さ。二つめが開発スケールの大きさです。中国の空は全く太陽が見えない状態で一時期の東京の空よりも状況は劣悪と思われた。(黄砂の

「地球温暖化防止対策」で日本は〇〇.六%削減目標の三分の二を森林吸収に依存していることは森林の整備なくしては実現出来ない目標です。森林整備の実段階で間伐材、林地残材及び曲がり材等B材が発生する訳ですが、それ等B材の合理的利用方法については私共合板工場も除々に設備的に受入れ整備は出来て居ります。尚、国産材であっても基本的に輸入外材との競争が必要です。それは産業

としての林業を目指し素材生産量の単当り(ヘクタール当り)生産量を拡大する林業対策が是非とも必要と考えます。行政が森林管理に徹し木材が出て来る森林造りを目指すことで日本の森林が整備され地球環境の改善にも役立つ二十世紀型の産業に進化するものと期待して居ります。

産業資材としての木材は「安定供給」が前提となります。今後、長期的、短期的視点で森林組合、生産者、買手である私共(合板メーカー)との調整に大きな役割を果していただけるのが素材流通協同組合と認識し期待しています。下山理事長を中心に岩手県素材流通協同組合の御活躍で日本の林業システムを産業としての林業へと変革して行く道筋を作り上げていただけるものと年の始めに念じて居ります。

## 今月のトピックス

### 素流協より

平成十六年度左記の方二名が素流協の会員となりましたのでお知らせ致します。

一、住所 玉山村好摩 字野中四ノ五四

会社名 佐藤熊雄

入会日 平成十六年六月十六日

一、住所 滝沢村鶯飼 字滝向六ノ一

会社名 (有)藤倉木材

代表取締役 藤倉百松

入会日 平成十六年十二月八日



ヒロシの独白

# 『現下のわが国の 森林・林業を考える II』



○「森林」を現代の人々はどのような認識しているのか(その1)

このことについては、ある大学の先生が調査した結果に基づいて述べてみましょう。まずこの調査の結論から言うと、「森林についての認識や印象は、人々が住む場所によって異なる」ということ、すなわち、都会に住む人たちと農村村に住む人たちの森林についての認識、印象、考え方が明確に異なるというのであります。その内容を具体的に述べると、都会の住民は、森林を思い浮かべるときに、「自然保護」、「休養やレクリエーション」、「ハイキング・散策」、「安らぎ」という事柄について強い意識を持ち、関心が深いというのであります。逆に、全然思い浮かばないか余り考えつかない事柄

としては、「森林は仕事の間」、「丸太や木材製品」、「木の成長」、「山菜・きのこ取り」ということであります。

一方、農山村の住民は、森林は仕事の間であり、木材を生産することであり、木の成長や山菜・きのこ取りについて強く意識し、関心も深かったが、逆に、自然保護とか休養・レクリエーションとかハイキング・散策、安らぎといった事柄に関心が低いという結果であったという。さらに、現在のが国では科学思想がゆき渡っており、森林についても「あまいさ」を嫌い、明確な科学的基礎がないとそれを認めない人が多くなっているというのであります。このことは逆に言えば、科学的基礎に基づいていると思われると、すな

わち、科学的に森林の機能や価値が見出されたものについては、観念的に(頭の中だけで)「知識・教養」としてそれを捉えてその面からだけ森林を考えることになり、この傾向は都会の住民に多く見られるのであります。本来森林にはいろいろな面があります。これを「森林の多様性」というのですが、この森林の多様な面を総合的に考えることをしないという傾向が強いことを示しているというのです。

もう一つの調査結果があるのでそれについても述べてみましょう。この調査は、東京に住む人たちに「森林という言葉からどのような風景を思い浮かべますか?」と質問した結果であります。二十歳代では、「美しい妖精の住む森」、

「グリム童話に出てくる森」、

「東山魁夷の画く森」、「原生林」、

「人の入ったことのない、うっそうとした森林」などと、空想的な森林を思い浮かべる人が多かった。四十歳代以上では、「どんぐりの落ちている林」、「雑木林」、

「湖をとりまく深く静かな森」などの「想い出の森林」を思い浮かべる人が多かったというのであります。このことは何を意味しているかというところ、東京で生まれ育った人は、観念的なというかイメージとしての森林について知っているが、「現実に存在している森林」について知っている人は極めて少ないのであります。そして、東京で生まれ育った人だけでなく、これと同じような人がどこでも多くなっているように思えると、結論づけておきます。

これまで述べてきた調査結果から私の私なりの考察については次号において述べることにします。

## 12月分の販売実績

ホクヨープライウッド(株)、北日本プライウッド(株)の2社に出荷した12月分合板用丸太の出荷実績は4,773m<sup>3</sup>となり累計では40,732m<sup>3</sup>となっております。これから本格的な冬山生産の時季となり出荷量の増量が期待できることから年間出荷計画量49,600m<sup>3</sup>の達成が見込める状況になって来ました。

あと3ヶ月、天候があまり荒れないことを願っております。

項目 樹種	長級 m	径級 cm	販売先		計 m <sup>3</sup>	累計 m <sup>3</sup>	出荷割合	
			ホクヨー プライ ウッド(株)	北日本 プライ ウッド(株)			樹種 毎 %	径級 毎 %
スギ	1.9	14上	802	824	1,626	12,202		59.5
	4.0	14上	460	594	1,054	8,296		40.5
	計		1,262	1,418	2,680	20,498	50.3	100.0
カラマツ	1.9	14上	838	433	1,271	13,790		94.9
	4.0	14上	17	7	24	744		5.1
	計		855	440	1,295	14,534	35.7	100.0
アカマツ	1.9	14上	474	323	797	5,030		93.7
	4.0	14上				338		6.3
	計		474	323	797	5,368	13.1	100.0
サワグルミ	1.9	18上	1		1	332	0.9	100.0
合計			2,592	2,181	4,773	40,732	100.0	100.0

### 落穂拾い

▽素流協ニュースの平成十七年一月号を期して、これまでの「編集後記」を「落穂拾い」と改題することにした。その理由は、編集後記といいながら、編集に係わる話題があまり掲載されなかったことにある。それならば、掲載記事に関係なく森林・林業関連ばかりではなく広く巷間に流布するトピックスを「落穂を拾い上げる」ように取り上げてみたいと考えている。

▽最近、「景気の山を越えた」とか「今は踊り場に居て、一服するとまた景気は上昇する」とか現在の景気判断は各人によってまちまちである。新聞記事によると、平成十六年八月、九月、十月、十一月と連続して四ヶ月景気動向指数が「五〇%割れ」となっている。

一説によると、三ヶ月連続して動向指数が五〇%を下回ると、景気は下り坂に入ったと見做されるそうである。どうも景気の動向は微妙な段階に入ったようである。林業界では、景気が良くなつたという実感が無いうちに……困ったね!!